

6 リスクアセスメントへの取り組みによって得られた効果

6.1 有形効果：

- (1) チェックリスト方式と比較すると機械全体の安全性の評価が分かりやすくなった。
- (2) 安全標識等については論理的な説明がついた。

6.2 無形効果：

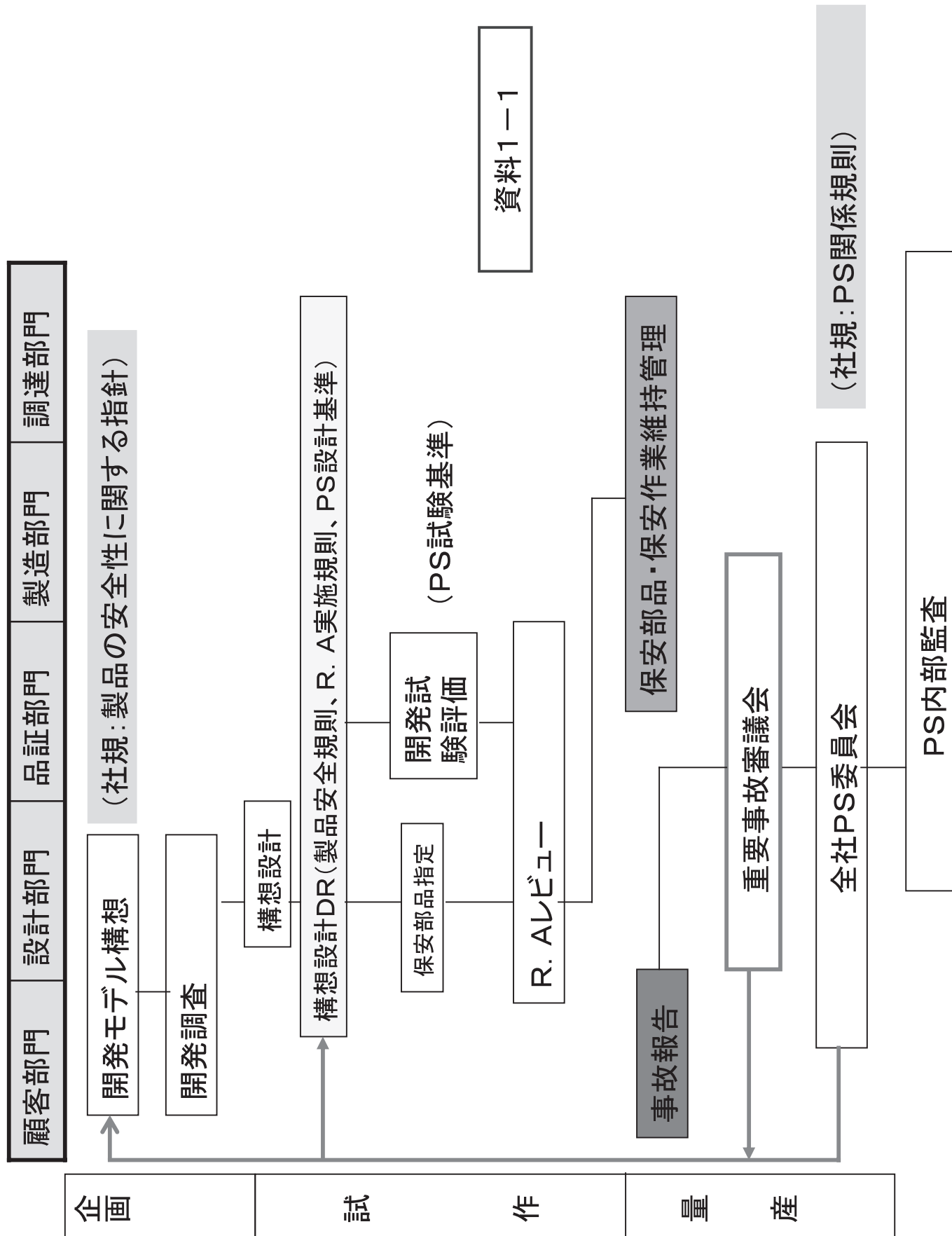
- (1) PLD（製造物責任対策）に寄与すると考えられる。
- (2) リスクアセスメントを実施することで機械安全に対する認識が深まる。

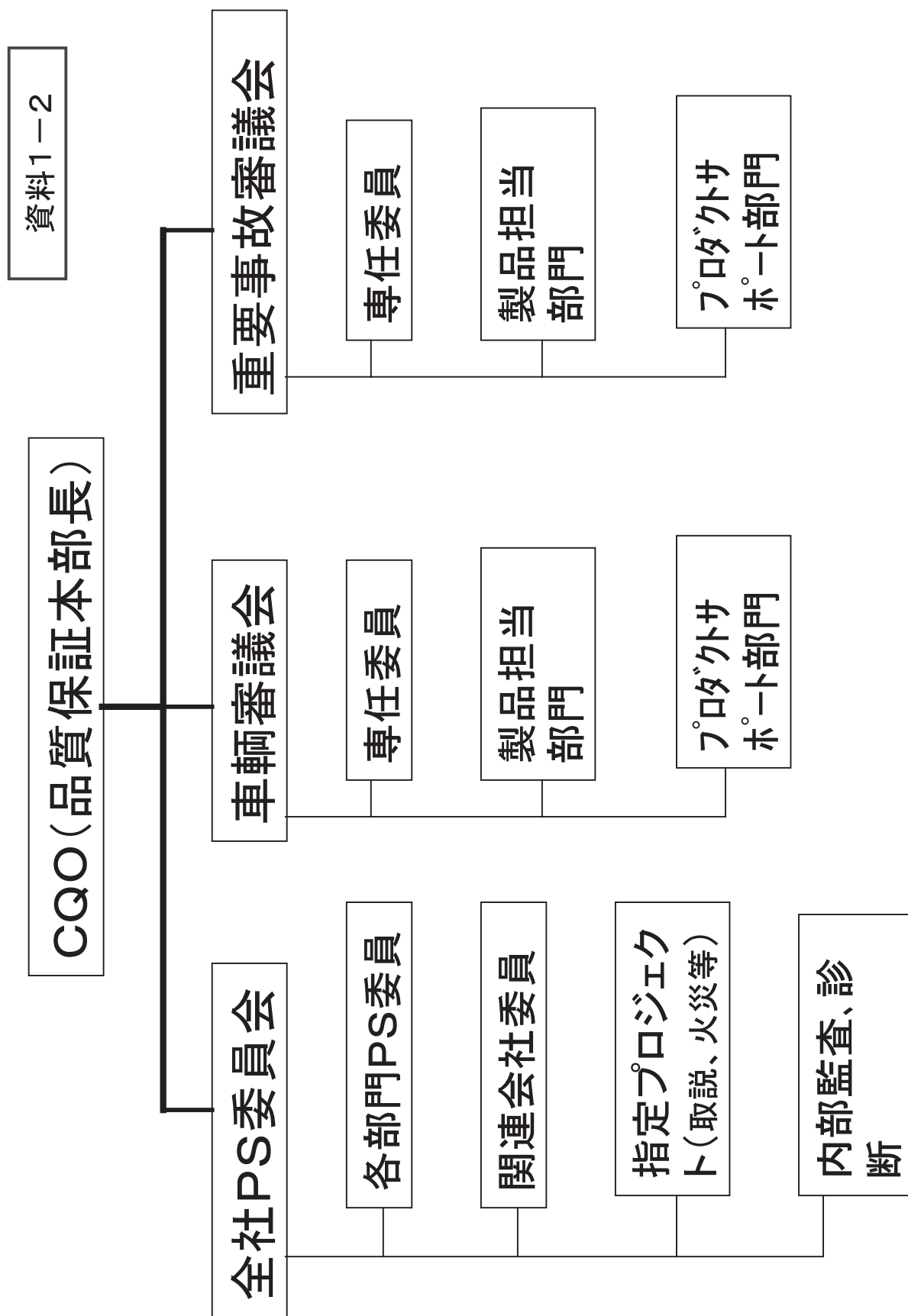
6.2 投下費用：

世界統一仕様を目標にしているので、特別な投資とは考えていない。

6.4 その他、問題点など：

- (1) モデルチェンジの繰り返し製品であるので、リスクアセスメントが形骸化する懸念がある。
- (2) 業界標準がまだないことから、潜在的な危険源の見逃しがないかどうか懸念材料としてある。





現状の機械安全体制

リスクアセスメント実施報告書

(様式－１Ａ)

(構想時)

作成		審査 (設計部門長)	承認 (事業部長)

1. 製品型式 : 3 2 7

2. 実施状況

年月日	部 署	参 加 者			
05. 08. 24	品証センタ	○山			
	建設Q A	×川			
	建開セ	△多	◇山	上△	凸島
		■沢	◎木		

3. 実施結果

単位 (件)

リスクレベル	リスクインデックス	評価基準	構想時
I	1～3	現状のまま許容できる	56
II	4～11	設計開発責任者の決定を要す	197
III	12～15	事業部長の決定を要す	0
IV	16～20	許容できない	0
合計			253